琉球新報
2012年(平成24年)3月5日月曜日 28面【社会】掲載

「さんしんの日」、芸能で交流

新赤道自治会 うるま

読んで楽しいNIE

「さんしんの日」に合わせた演奏会で、普段の練習の成果を発表する「結の会」のメンバーら＝４日、うるま市の新赤道公民館

【うるま】「さんしんの日」の４日、うるま市の新赤道自治会（仲本博道会長）は同記念日に合わせた演奏会を新赤道公民館で開いた。住民たちが三線や箏を演奏し、琉舞を踊った。

演奏したのは同公民館で週に２度、三線や箏を練習している「野村流古典音楽結の会」（与儀正則会長）のメンバーら30人。婦人部や地元の琉舞道場に通う子どもたちも踊りを披露し、集まった約100人の住民は伝統芸能を通じて交流を深めた。正午の時報に合わせた「かぎやで風」で幕開けし、デンサー節や安里屋ユンタは全員で合唱した。

与儀会長は「三線を通して地域の絆が深まり、心を癒やせたらと思う。若者の参加も増やしていきたい」と笑顔。新赤道自治会の仲本会長は「こうして集まった人たちが交流を深め、伝統が根付いていくことがうれしい」と話した。